

岡山県感染症週報 2014 年 第 22 週 (5 月 26 日～6 月 1 日)

◎岡山県は『インフルエンザ注意報』を解除しました。(6 月 5 日)

◆2014 年 第 22 週 (5/26～6/1) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

- 第 20 週 2 類感染症 結核 1 名 (60 代 女)
 5 類感染症 侵襲性肺炎球菌感染症 1 名 (幼児 男)
 第 21 週 2 類感染症 結核 1 名 (30 代 女)
 4 類感染症 レジオネラ症 1 名 (70 代 女)
 第 22 週 2 類感染症 結核 4 名 (70 代 女 1 名、80 代 男 1 名・女 2 名)
 4 類感染症 A 型肝炎 1 名 (60 代 男)

■定点把握感染症発生状況

- インフルエンザは、県全体で 30 名 (定点あたり 0.73 → 0.36 人) の報告があり、前週より減少しました。
 ○感染性胃腸炎は、県全体で 574 名 (定点あたり 10.72 → 10.63 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。
 ○咽頭結膜熱は、県全体で 38 名 (定点あたり 0.56 → 0.70 人) の報告があり、前週より増加しました。

1. **感染性胃腸炎**は、県全体で 574 名 (定点あたり 10.72 → 10.63 人) の報告があり、前週とほぼ同数でしたが、過去 10 年の同時期と比較して、もっとも患者数が多い状態で推移しています。倉敷市では、4 週連続で発生レベル 3 となっています。ひきつづき手洗いの徹底や下痢便・嘔吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。県内の発生状況など詳しくは「[感染性胃腸炎情報](#)」をご覧ください。
2. **インフルエンザ**は、県全体で 30 名 (定点あたり 0.73 → 0.36 人) の報告があり、前週より減少しました。岡山県では 2 週連続して定点あたり患者数が 1 人を下まわったため、6 月 5 日「インフルエンザ注意報」を解除しました。県内の発生状況など詳しくは、「[インフルエンザ情報](#)」をご覧ください。
 全国の第 21 週の発生状況を見ると、定点あたり 0.56 人であり、第 17 週以降、5 週連続で減少しました。
3. **咽頭結膜熱**は、県全体で 38 名 (定点あたり 0.56 → 0.70 人) の報告がありました。詳しくは「[今週の注目感染症](#)」をご覧ください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	↓	★	RSウイルス感染症	↑	★
咽頭結膜熱	↗	★★★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↘	★★
感染性胃腸炎	→	★★★★★	水痘	→	★
手足口病	→	★	伝染性紅斑	↑	★
突発性発疹	↘	★★	百日咳	↑	★
ヘルパンギーナ	↘	★	流行性耳下腺炎	↘	★
急性出血性結膜炎	↓		流行性角結膜炎	→	★
細菌性髄膜炎	→		無菌性髄膜炎	↑	★★★
マイコプラズマ肺炎	↑	★	クラミジア肺炎	↑	★
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	↑				

【記号の説明】 前週からの推移: ↓ : 2 倍以上の減少 ↘ : 1.1～2 倍未満の減少 → : 1.1 未満の増減

↗ : 1.1～2 倍未満の増加 ↑ : 2 倍以上の増加

発生状況: 空白: 発生なし ★: 僅か ★★: 少し ★★★: やや多い ★★★★: 多い ★★★★★: 非常に多い

今週の流行状況を過去 5 年間で比較し、5 段階で表示しています。

感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、平成 25 年第 42 週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。

野山などへ入る際には、マダニに注意してください！

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）を引き起こす SFTS ウイルスを保有したマダニが、県内に広く分布している可能性が考えられます。これからの季節は、マダニの活動が活発になります。咬まれないための予防対策をしましょう。

【予防のポイント】

- ・草むらなどに入るときには、腕・足・首など肌の露出を少なくしましょう。長袖、長ズボン、手袋、足を完全に覆う長靴などを着用してください。
- ・服の上や肌の露出部分に、防虫スプレーを噴霧しましょう。
- ・草の上に直接寝転んだり、腰を下ろしたり、服を置いたりするのはやめましょう。
- ・野外活動後は、すぐに入浴し、体をよく洗い、新しい服に着替えましょう。入浴やシャワーの時には、マダニが肌に付いていないかチェックしてください。
- ・脱いだ衣服はすぐに洗濯するか、ナイロン袋に入れて口を縛っておきましょう。

[マダニに注意!（岡山県チラシ）](#)

[マダニ対策、今できること（国立感染症研究所）](#)

[重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関する Q&A（厚生労働省）](#)

今週の注目感染症

咽頭結膜熱

咽頭結膜熱は、主にアデノウイルスに感染することによってみられる発熱、咽頭炎、眼症状を主とする小児の急性ウイルス性感染症です。通常 5～7 日の潜伏期間を経て発熱で発症し、頭痛、食欲不振、全身倦怠感とともに、咽頭炎によるのどの痛み、結膜炎にともなう結膜充血、眼痛、目やになどの症状がみられ、症状は 3～5 日程度持続した後、回復します。特異的な治療法はなく、治療は対症療法が中心となります。眼症状が強い場合には、眼科的治療が必要となることもあります。

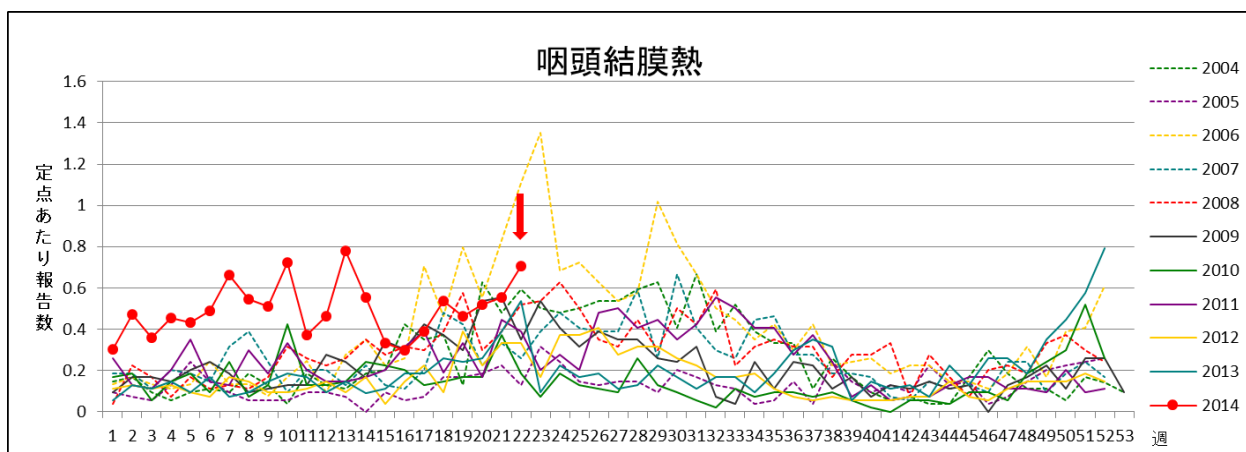
感染経路は主に接触感染、飛沫感染ですが、その感染力は強力で、タオル、ドアノブ、エレベーターのボタン、階段の手すり等の患者が触れたものを介しても感染する場合があります。通常夏季を中心に流行する疾患で、プールでの感染も多く見られることから、プール熱とも呼ばれます。患者の年齢は 5 歳以下が約 6 割を占めています。

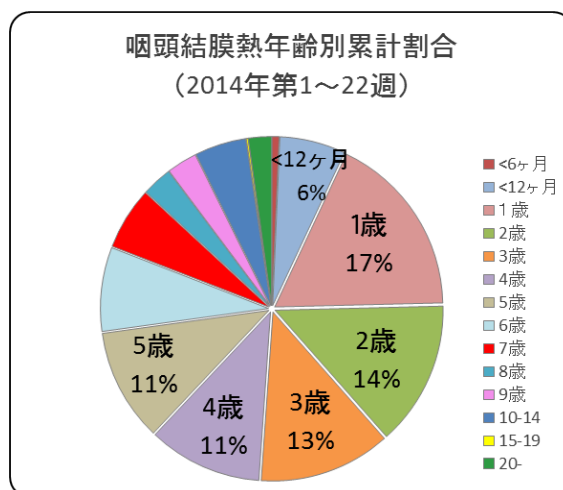
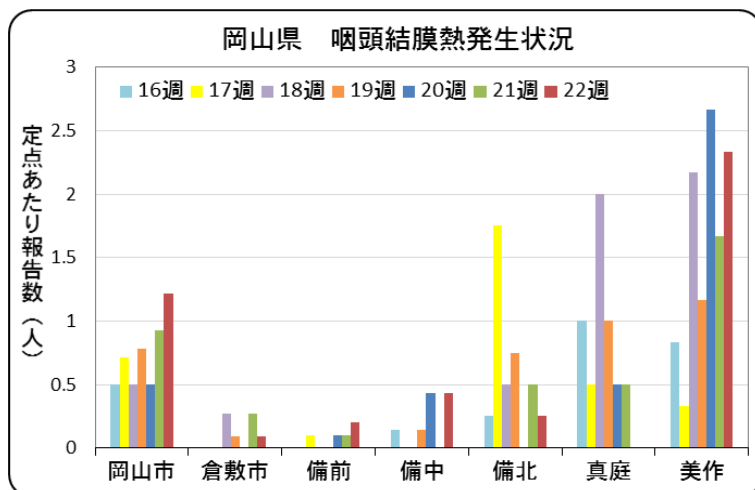
予防法は、感染者との接触を避けること、流行時にうがいや手洗い、手指の消毒を実施することなどです。消毒法として、手指に対しては流水と石けんによる手洗い、器具に対しては煮沸や次亜塩素酸ナトリウムを用います。アデノウイルスに対して、消毒用エタノールの消毒効果は弱いとされています。

[（国立感染症研究所 IDWR 2012 年第 25 週＜注目すべき感染症＞咽頭結膜熱）](#)

[咽頭結膜熱とは（国立感染症研究所 感染症の話）](#)

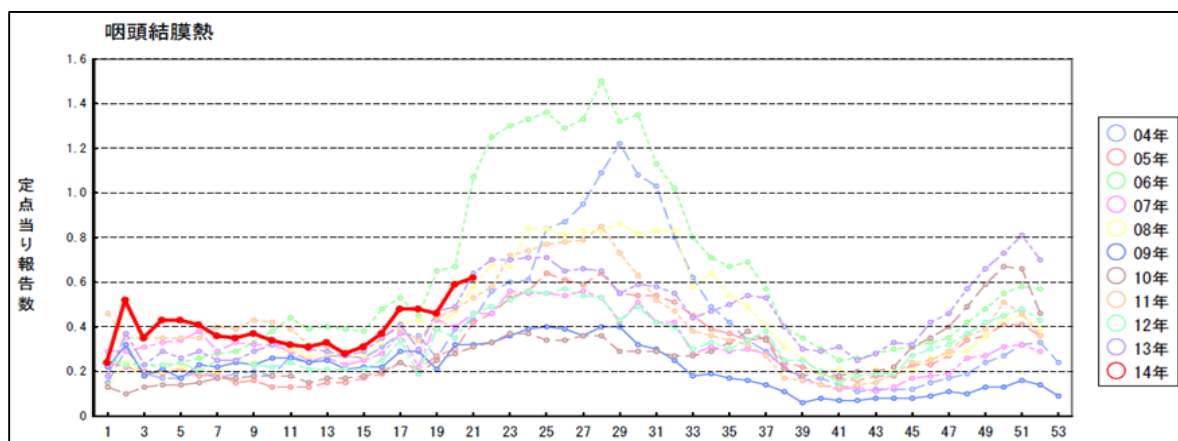
【岡山県の発生状況】



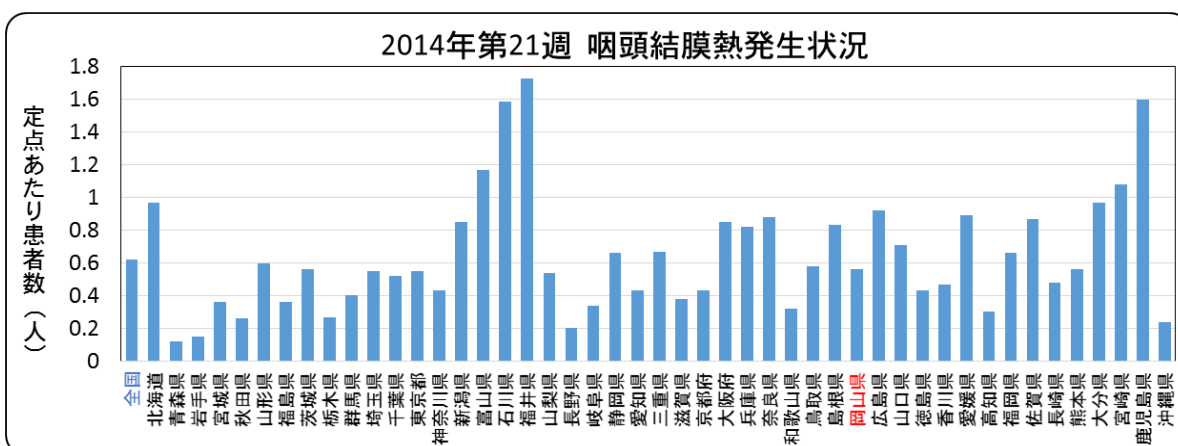


咽頭結膜熱は、第 22 週には県全体で 38 人（定点あたり 0.56→0.70 人）の報告がありました。例年の同時期に比べて患者数が多い状態で推移しています。地域別では、美作地域（2.33 人）、岡山市（1.21 人）、備中地域（0.43 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。第 22 週までの患者発生状況を見ると、岡山市及び美作地域で増加傾向にあり、特に美作地域で高いレベルで推移しています。2014 年の年齢別累計では、1 歳 17%、2 歳 14%、3 歳 13% の順で多く報告されており、0 歳～5 歳の乳幼児が 72% を占めています。

【全国の発生状況】



[国立感染症研究所 IDWR 速報データ 2014 年第 21 週](#)



全国集計第 21 週速報値によると、全国では定点あたり 0.62 人でした。2014 年の発生状況を見ると、第 2 週から過去 10 年と比べて高いレベルで推移しており、第 15 週から増加傾向にあります。都道府県別では、福井県（1.73 人）、鹿児島県（1.60 人）、石川県（1.59 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。

岡山県内の 2014 年患者報告数は、過去 10 年と比べて、寒い時期から高いレベルで推移しています。これから流行シーズンである夏季に向けて、発生状況に注意するとともに、しっかり手を洗い、患者との接触を避けるなど、感染予防に努めましょう。

インフルエンザ情報 2014 年 第 22 週 (5 月 26 日 ~ 6 月 1 日)

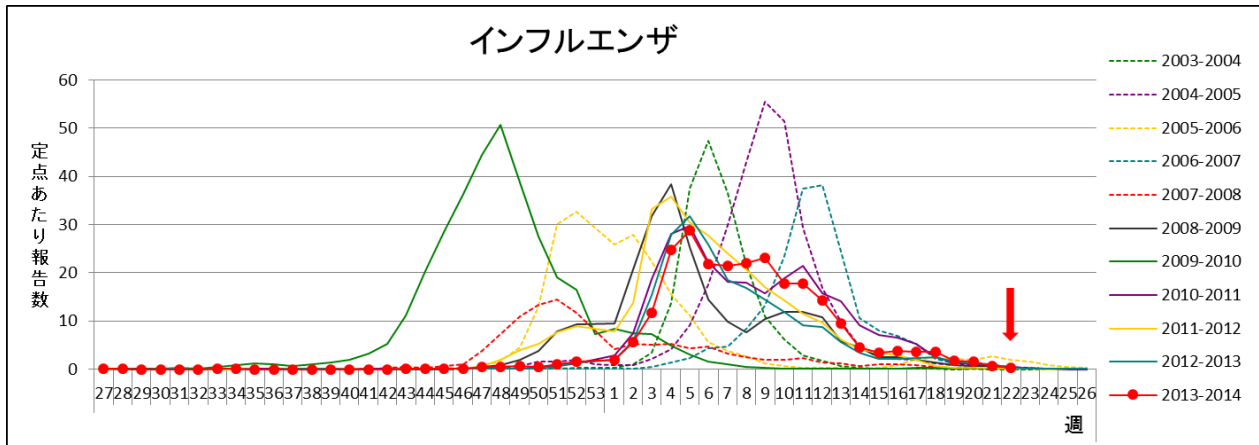
岡山県は『インフルエンザ注意報』を解除しました。(6 月 5 日)

【お知らせ】今シーズンにおける定期的なインフルエンザ情報は、今週（第 22 週）をもって終了いたします。

2014/2015 年シーズンは、2014 年 11 月頃からの掲載を予定しています。

➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で 30 名（定点あたり 0.73 → 0.36 人）の発生があり、前週より減少しました。
岡山県は、6 月 5 日「インフルエンザ注意報」を解除しました。
- インフルエンザによる入院患者は、ありませんでした。
- インフルエンザとみられる臨時休業は、ありませんでした。



インフルエンザは、県全体で 30 名（定点あたり 0.73 → 0.36 人）の発生があり、前週より減少しました（84 定点医療機関報告）。

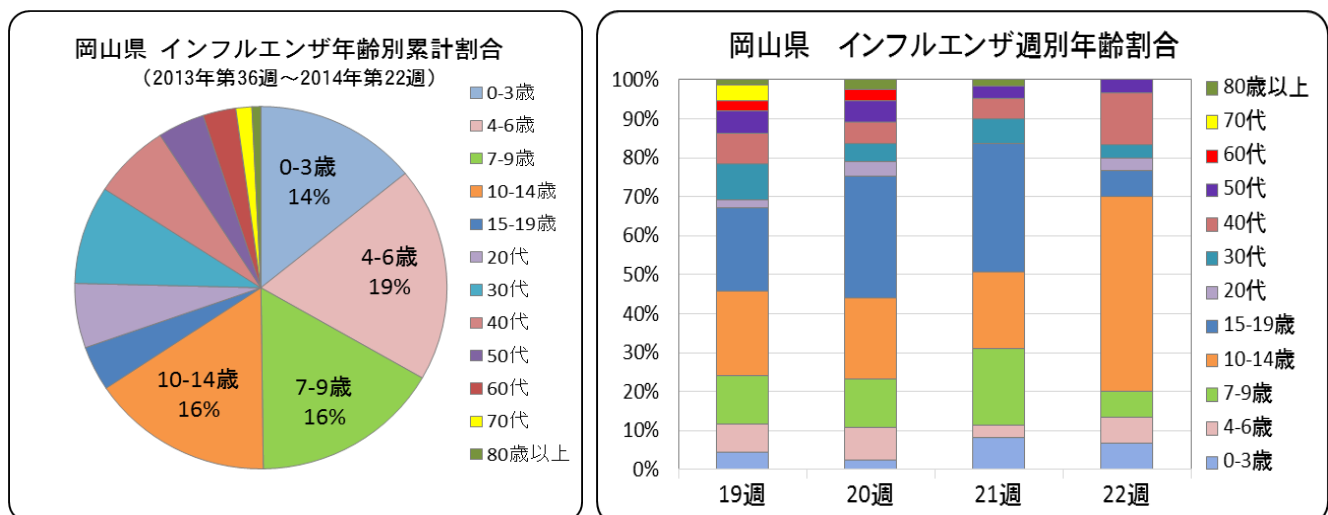
岡山県では、定点あたり患者報告数が第 21 週 0.73 人、第 22 週 0.36 人と 2 週連続して 1 人を下まわったため、平成 26 年 1 月 16 日に発令された「インフルエンザ注意報」は、6 月 5 日をもって解除されました。

インフルエンザの流行は終息したと思われますが、まだ患者発生のある地域もあります。注意報は解除となりましたが、日常における感染予防として、ひきつづき手洗い・うがいなど感染予防を心がけましょう。

※注意報の解除基準：2 週連続して、定点あたり 1 人を下まわった場合

1. 年齢別発生状況

年齢別累計割合では 4-6 歳 19%、7-9 歳及び 10-14 歳 16% の順で多くなっています。週別年齢割合をみると、小学生・中学生・高校生に該当する年齢層が多くを占めていますので、ひきつづき集団生活の中での感染に注意してください。

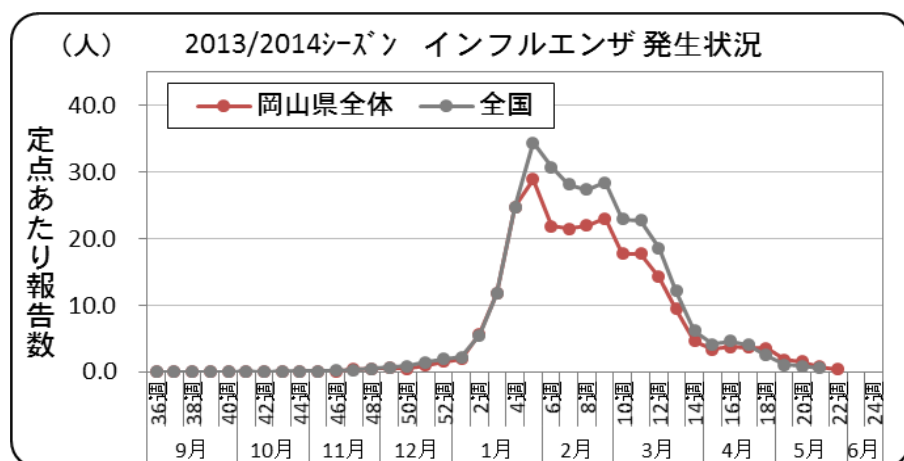


2. 地域別発生状況

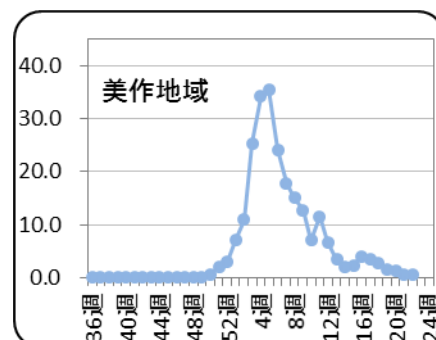
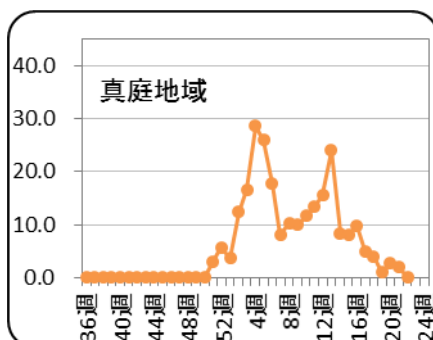
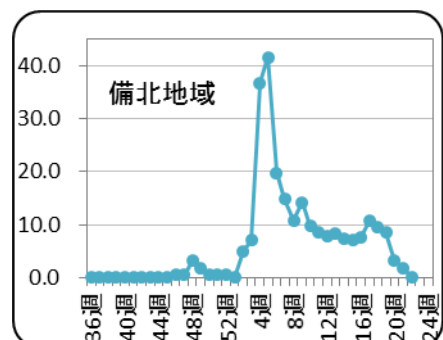
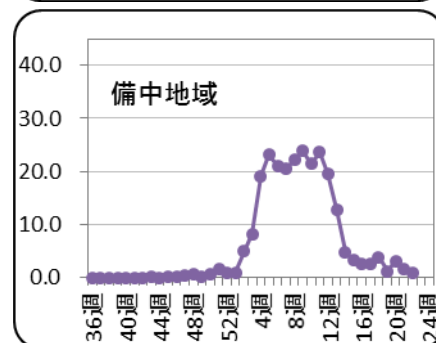
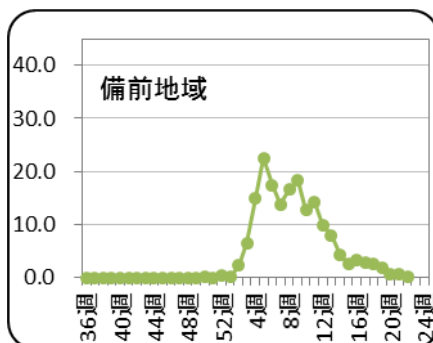
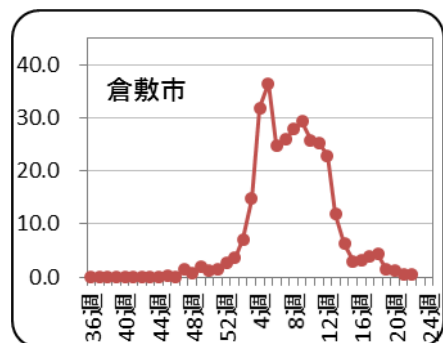
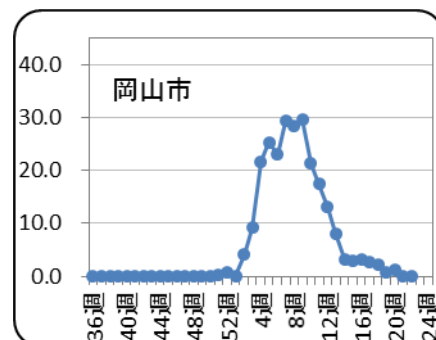
前週からの推移（単位：人）

地域名	発生状況	推移	地域名	発生状況	推移
岡山県全体	患者数	30	備 中	患者数	12
	定点あたり	0.36		定点あたり	1.00
岡山市	患者数	2	備 北	患者数	0
	定点あたり	0.09		定点あたり	0.00
倉敷市	患者数	7	真 庭	患者数	0
	定点あたり	0.44		定点あたり	0.00
備 前	患者数	4	美 作	患者数	5
	定点あたり	0.27		定点あたり	0.50

【記号の説明】 前週からの推移： 2倍以上の減少 ↓ 1.1～2倍未満の減少 ↘ 1.1未満の増減 →
1.1～2倍未満の増加 ↗ 2倍以上の増加 ↑



全国集計第21週(5/19～5/25)速報値によると、全国では定点あたり0.56人であり、第17週以降、5週連続で減少しました。地域別では、沖縄県(7.64人)、山形県(2.94人)、岩手県(2.11人)の順で定点あたり報告数が増えており、44都道府県で前週より減少しています。



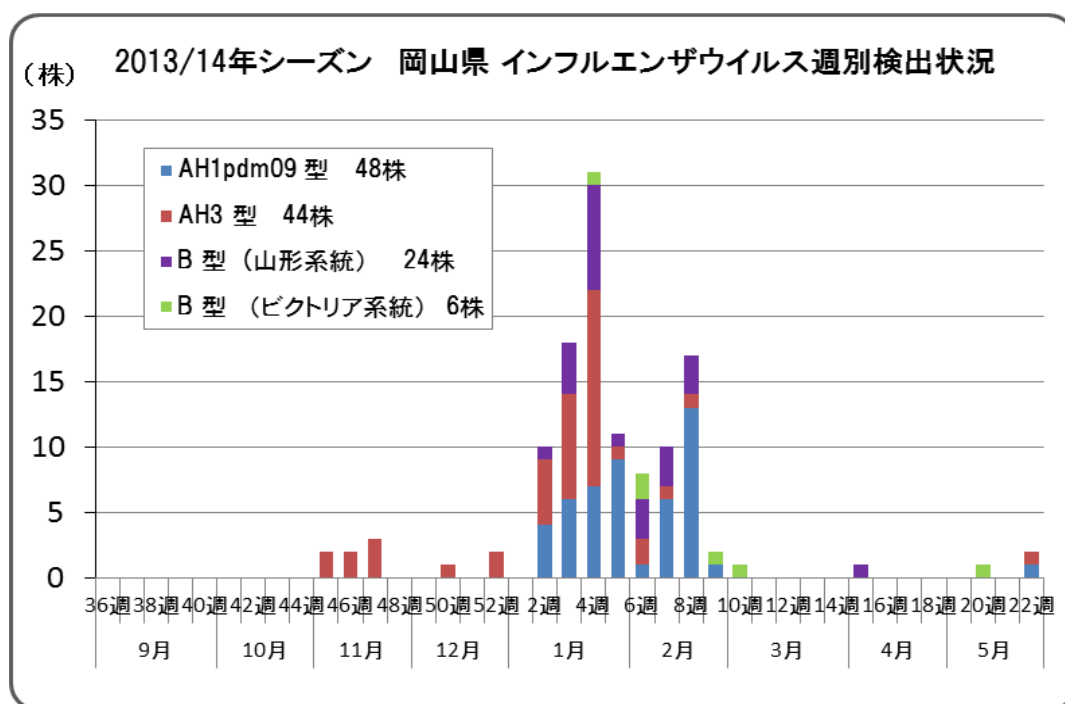
3. インフルエンザウイルス検出状況

第22週、環境保健センターで判明したインフルエンザウイルスは、AH1pdm09型が1株、AH3型が1株、B型（山形系統）1株、B型（ビクトリア系統）1株でした。今シーズンで、これまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは、AH1pdm09型が48株（39%）、AH3型が44株（36%）、B型が30株（25%）となっています。

（岡山県 インフルエンザウイルス分離・検出状況）

全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH1pdm09型 43%、B型 35%、AH3型 21%の順に多く検出されています。AH1pdm09型のインフルエンザウイルスは、4年前の2009/2010年シーズンに新型インフルエンザとして大流行し、その年に検出されたウイルスの98%がAH1pdm09型となりました。その後、2011年4月以降は通常の季節性インフルエンザの扱いとなり、つづく2シーズンは低い検出率（0.2～2.4%）でしたが、今シーズンは3年ぶりに検出率が高くなっています。（平成26年6月4日現在）

（インフルエンザウイルス分離・検出速報（国立感染症研究所））

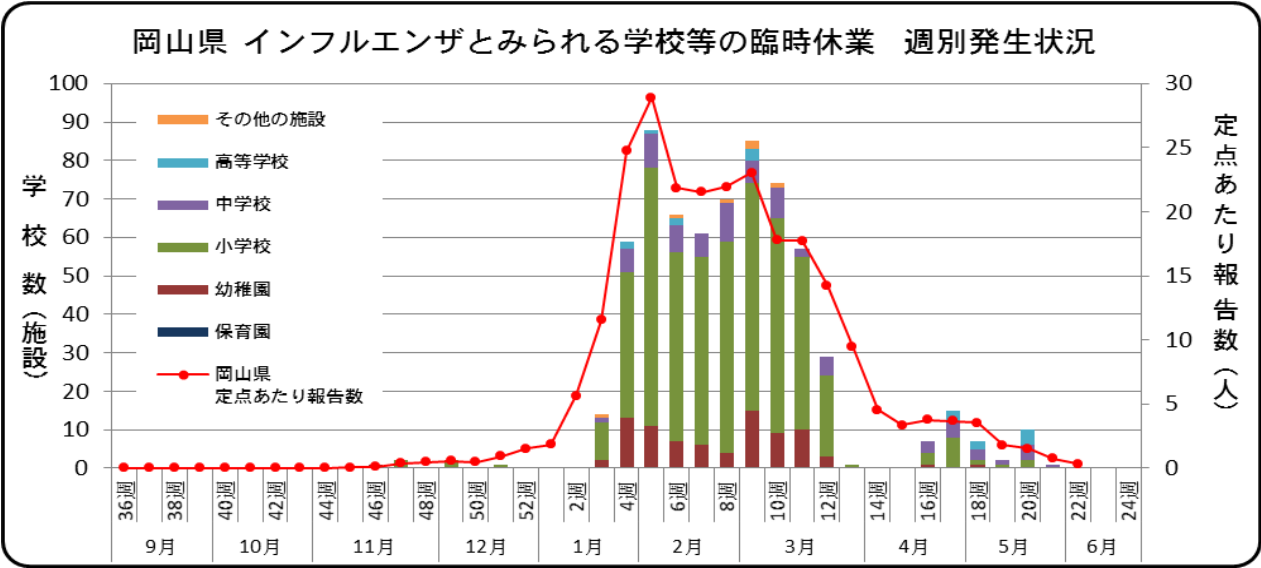


【第22週 判明分】

ウイルス名	検体採取週	検体採取日	地域	年齢	性別	備考
インフルエンザウイルスB型	2014年第15週(4/7～4/13)	2014/4/9	備中	幼児	男	山形系統
インフルエンザウイルスB型	2014年第20週(5/12～5/18)	2014/5/17	岡山市	高校生	男	ビクトリア系統
インフルエンザウイルスAH1pdm09型	2014年第22週(5/26～6/1)	2014/5/26	美作	50代	男	
インフルエンザウイルスAH3型	2014年第22週(5/26～6/1)	2014/5/29	備中	小学生	男	

4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザとみられる学校等の臨時休業はありませんでした。



1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	0	9513	0	7200	0	652	0	18	0	181	0	453	H25. 11. 13
岡山市	0	3874	0	2811	0	233	0	3	0	35	0	195	H26. 1. 14
倉敷市	0	1621	0	1289	0	117	0	1	0	22	0	94	H25. 11. 18
備前地域	0	766	0	623	0	69	0	1	0	35	0	33	H26. 1. 16
備中地域	0	1344	0	1040	0	99	0	0	0	25	0	74	H25. 11. 13
備北地域	0	347	0	223	0	20	0	6	0	9	0	5	H26. 1. 23
真庭地域	0	160	0	127	0	17	0	0	0	12	0	5	H26. 1. 27
美作地域	0	1401	0	1087	0	97	0	7	0	43	0	47	H25. 12. 20

* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

2) 臨時休業施設数の内訳

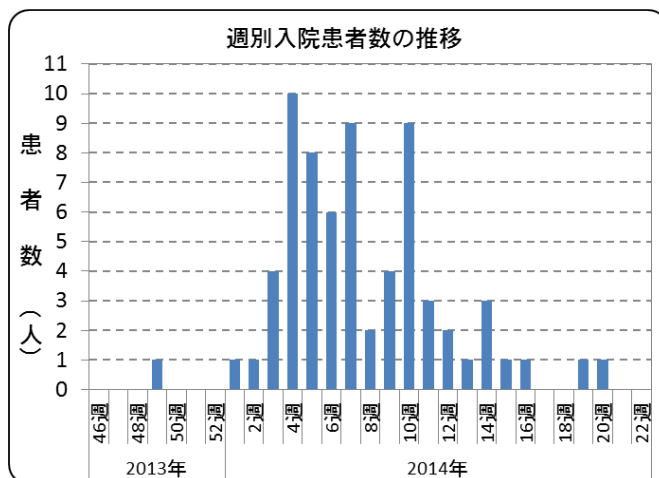
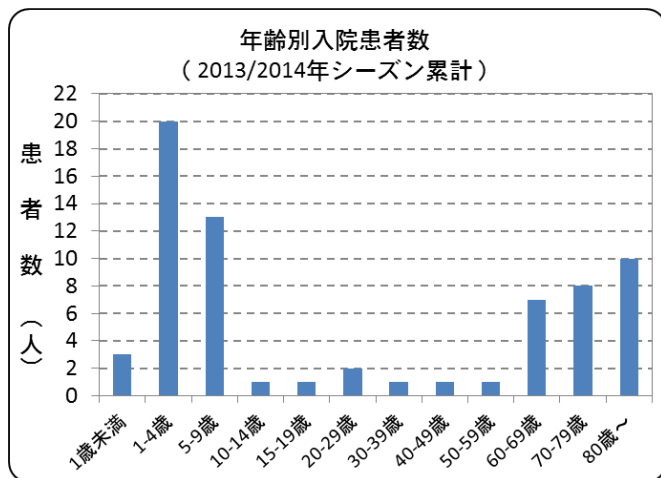
第 22 週： 0 施設 累計： 652 施設

	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	—	—	0	83	0	470	0	76	0	17	0	6

5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者は、ありませんでした。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関に相談しましょう。



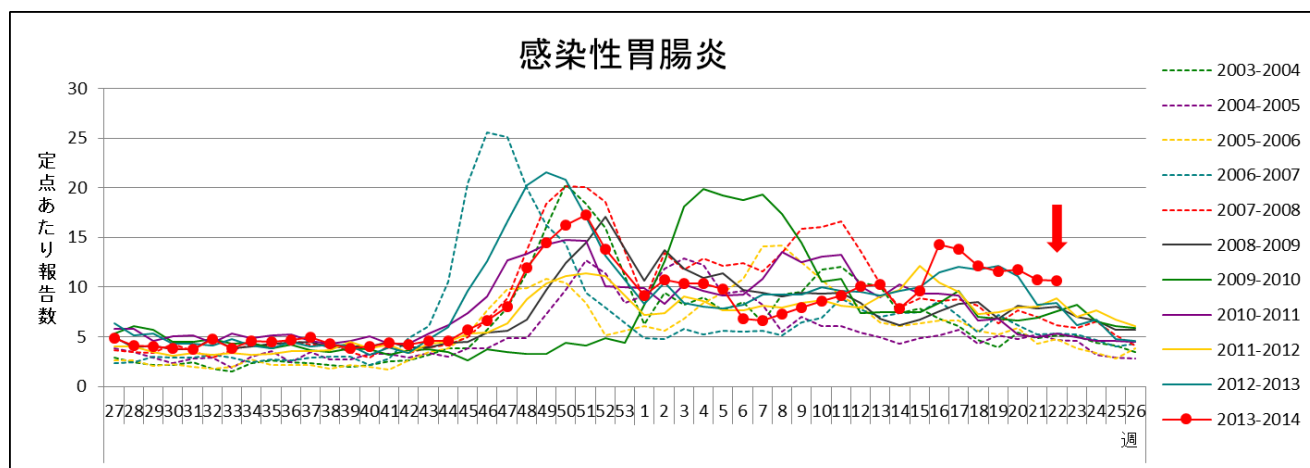
【平成 25 年 9 月 2 日以降に入院した患者の累計数】

年齢	1歳未満	1~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80歳以上	計*
入院患者数	3	20	13	1	1	2	1	1	1	7	8	10	68
ICU 入室		1							1				2
人工呼吸器の利用		1									2		3
頭部 CT 検査(予定含)		3	1						1		1		6
頭部 MRI 検査(予定含)	1	2	2						1		1	1	8
脳波検査(予定含)	1	2	2										5
いずれにも該当せず	2	16	10	1	1	2	1	1		7	5	9	55

* 重複あり

感染性胃腸炎情報 2014 年 第 22 週 (5 月 26 日 ~ 6 月 1 日)

○感染性胃腸炎は、県全体で 574 名（定点あたり 10.72 → 10.63 人）の発生がありました（54 定点医療機関報告）。

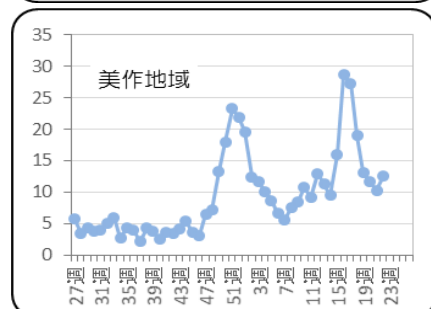
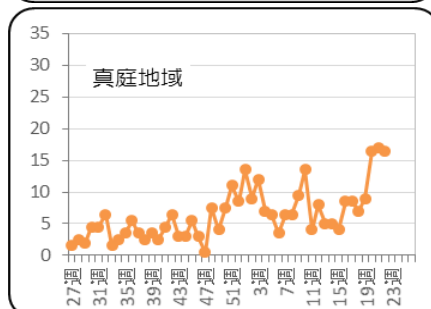
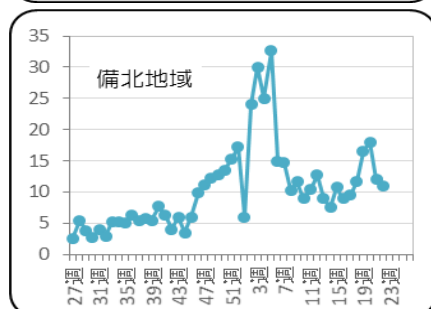
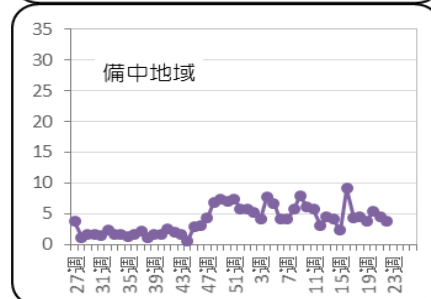
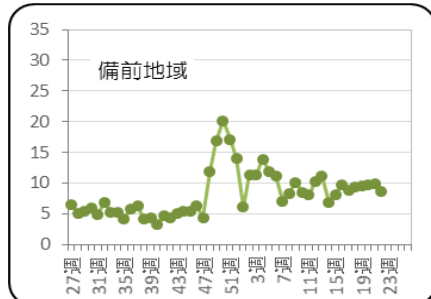
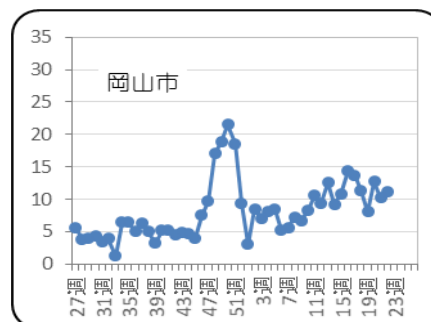
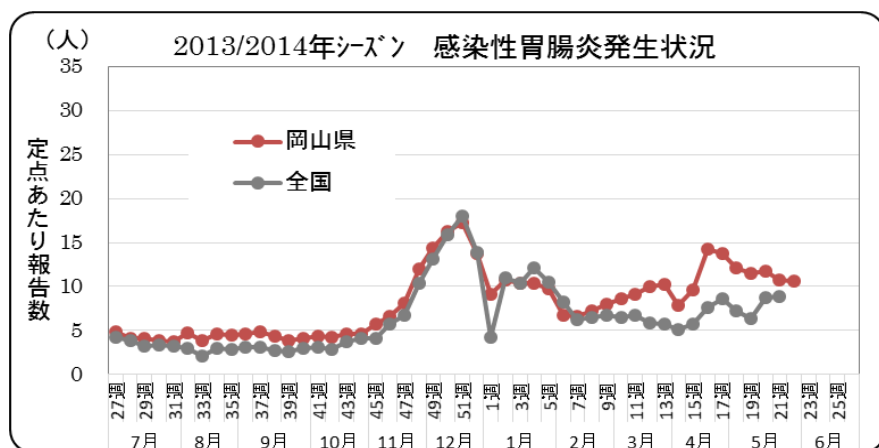


※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、27 週～翌年 26 週でグラフを作成しています。

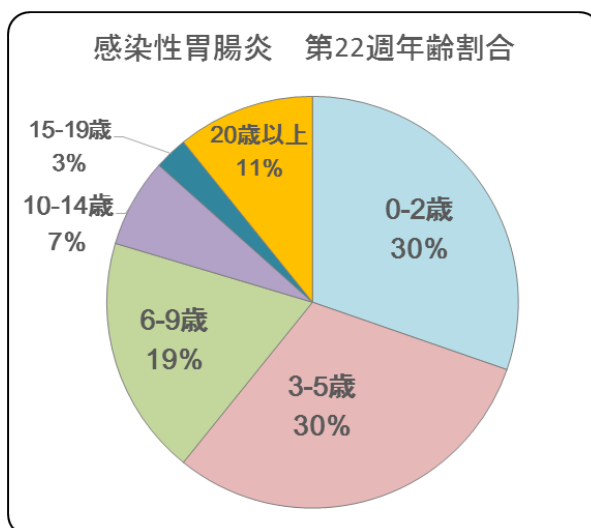
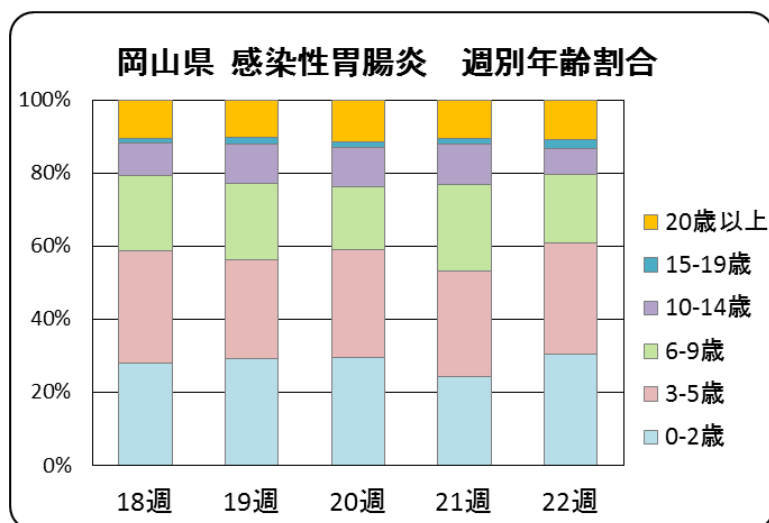
感染性胃腸炎は、県全体で 574 名（定点あたり 10.72 → 10.63 人）の発生があり、前週とほぼ同数でしたが、過去 10 年の同時期と比較して、もっとも患者数が多い状態で推移しています。

例年、梅雨から夏にかけての高温多湿になる時期は、食中毒菌による感染性胃腸炎も増加します。トイレの後や食事、調理の前には、特にしっかりと石けんと流水で手を洗うなど、感染予防に努めてください。食中毒の原因となる菌には、増殖しても味やにおいあまり変化を起こさないものもあります。味やにおいを過信するのは止めましょう。

[食中毒に関する情報（厚生労働省）](#)



◆地域別・年齢別発生状況



地域別では、真庭地域（16.50 人）、倉敷市（13.82 人）、美作地域（12.67 人）の順で定点あたり報告数が多くなりました。倉敷市では、4 週連続で発生レベル3 となっています。年齢別割合では、0-2 歳及び 3-5 歳がそれぞれ 30%と乳幼児が全体の 60%を占めています。

◎感染性胃腸炎が多く発生しています。

石けんと流水でしっかりと手を洗うなど、感染予防と拡大防止に努めましょう。患者の嘔吐物や下痢便を処理する際には、自分が感染しないように、使い捨ての上着やマスク、手袋を着用しましょう。また、塩素系漂白剤などを使った消毒も併せて行いましょう。

通常重症化することはありませんが、小さなお子さんや高齢者の方は、嘔吐や下痢による脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

保健所別報告患者数 2014年 22週 (2014/05/26～2014/06/01)

2014年6月3日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	30	0.36	2	0.09	7	0.44	4	0.27	12	1.00	—	—	—	—	5	0.50
RSウイルス感染症	2	0.04	1	0.07	1	0.09	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
咽頭結膜熱	38	0.70	17	1.21	1	0.09	2	0.20	3	0.43	1	0.25	—	—	14	2.33
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	80	1.48	36	2.57	20	1.82	8	0.80	5	0.71	2	0.50	—	—	9	1.50
感染性胃腸炎	574	10.63	156	11.14	152	13.82	86	8.60	27	3.86	44	11.00	33	16.50	76	12.67
水痘	36	0.67	14	1.00	6	0.55	1	0.10	8	1.14	6	1.50	—	—	1	0.17
手足口病	4	0.07	3	0.21	1	0.09	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
伝染性紅斑	1	0.02	1	0.07	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
突発性発疹	26	0.48	14	1.00	6	0.55	2	0.20	—	—	1	0.25	—	—	3	0.50
百日咳	2	0.04	—	—	2	0.18	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	6	0.11	3	0.21	—	—	2	0.20	1	0.14	—	—	—	—	—	—
流行性耳下腺炎	6	0.11	1	0.07	3	0.27	1	0.10	—	—	—	—	—	—	1	0.17
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	2	0.17	1	0.20	—	—	—	—	1	1.00	—	—	—	—	—	—
細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	2	0.40	—	—	2	2.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	1	0.20	—	—	1	1.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
クラミジア肺炎	1	0.20	—	—	1	1.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	3	0.60	—	—	3	3.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(— : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	30	0.36	2	0.09	7	0.44	4	0.27	12	1.00	－	－	－	－	5	0.50
咽頭結膜熱	38	0.70	17	1.21	1	0.09	2	0.20	3	0.43	1	0.25	－	－	14	2.33
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	80	1.48	36	2.57	20	1.82	8	0.80	5	0.71	2	0.50	－	－	9	1.50
感染性胃腸炎	574	10.63	156	11.14	152	13.82	86	8.60	27	3.86	44	11.00	33	16.50	76	12.67
水痘	36	0.67	14	1.00	6	0.55	1	0.10	8	1.14	6	1.50	－	－	1	0.17
手足口病	4	0.07	3	0.21	1	0.09	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
伝染性紅斑	1	0.02	1	0.07	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
百日咳	2	0.04	－	－	2	0.18	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ヘルパンギーナ	6	0.11	3	0.21	－	－	2	0.20	1	0.14	－	－	－	－	－	－
流行性耳下腺炎	6	0.11	1	0.07	3	0.27	1	0.10	－	－	－	－	－	－	1	0.17
急性出血性結膜炎	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－					－	－
流行性角結膜炎	2	0.17	1	0.20	－	－	－	－	1	1.00					－	－

濃黄セルに赤字

は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3

薄黄セルに黒数字

は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2

を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2014年 第22週 2014/05/26～2014/06/01)

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	30	-	-	-	-	2	-	1	1	-	-	2	15	2	1	1	4	1	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	2	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	38	1	3	12	7	7	5	-	1	1	-	-	-	-	1
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	80	-	-	4	3	7	11	9	10	6	9	4	10	1	6
感染性胃腸炎	574	8	41	68	57	51	75	49	38	28	23	19	40	15	62
水痘	36	-	2	8	3	2	4	6	5	3	1	-	2	-	-
手足口病	4	-	1	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	26	2	9	13	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
ヘルパンギーナ	6	-	-	1	3	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	6	-	-	-	-	-	1	1	-	2	1	-	1	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	2	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
クラミジア肺炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	3	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

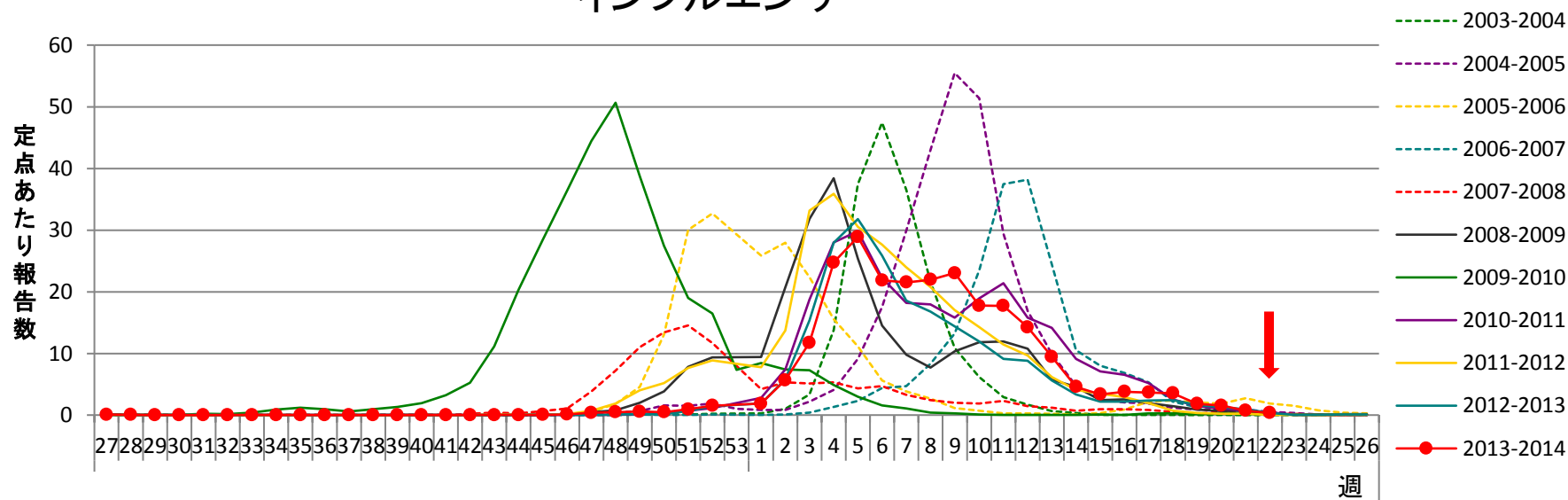
(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

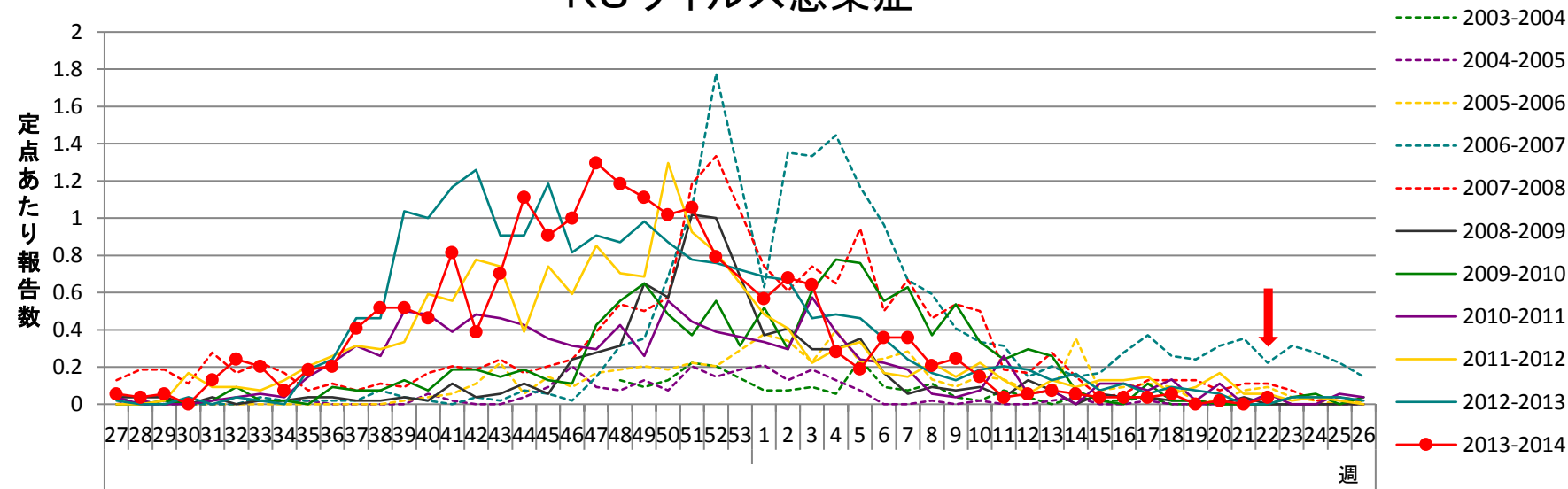
2014 年 22 週

分類	疾病名	2014			2013	2014	2013	2014	2013	2014	2013
		今週	累計	昨年		今週	累計	今週	累計	今週	累計
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱 ペスト	-	-	-	痘そう マールブルグ病	-	-
	南米出血熱	-	-	-		-	-	-		-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核 鳥インフルエンザ(H5N1)	4	126	358	ジフテリア	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-		-	-	-		-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢 パラチフス	-	-	-	腸管出血性大腸菌感染症	-	10
	腸チフス	-	-	1		-	-	-		-	-
四類	E型肝炎	-	1	-	ウエストナイル熱 黄熱 回帰熱 狂犬病 重症熱性血小板減少症候群 ダニ媒介脳炎 つつが虫病 鳥インフルエンザ 日本紅斑熱 鼻疽 ヘンドラウイルス感染症 マラリア リッサウイルス感染症 レジオネラ症	-	-	-	A型肝炎 オウム病 キャサヌル森林病 コクシジオイデス症 腎症候性出血熱 炭疽 デング熱 ニパウイルス感染症 ハンタウイルス肺症候群 ブルセラ症 発しんチフス 野兎病 リフトバレー熱 レプトスピラ症	1	5
	エキノコックス症	-	-	-		-	-	-		-	-
	オムスク出血熱	-	-	-		-	-	-		-	-
	Q熱	-	-	-		-	-	-		-	-
	サル痘	-	-	-		-	1	2		-	-
	西部ウマ脳炎	-	-	-		-	-	-		-	-
	チクングニア熱	-	-	-		-	1	-		-	-
	東部ウマ脳炎	-	-	-		-	-	-		-	-
	日本脳炎	-	-	1		-	-	2		-	-
	Bウイルス病	-	-	-		-	-	-		-	-
	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-		-	-	-		-	-
	ポツリヌス症	-	-	-		-	-	1		-	-
	ライム病	-	-	-		-	-	-		-	-
	類鼻疽	-	-	-		-	11	24		-	-
	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-		-	-
五類	アメーバ赤痢	-	2	20	ウイルス性肝炎*3 クロイツフェルト・ヤコブ病 ジアルジア症 侵襲性肺炎球菌感染症 破傷風 風しん	-	4	13	急性脳炎*4 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 侵襲性インフルエンザ菌感染症 先天性風しん症候群 バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染 麻しん	-	5
	クリプトスポリジウム症	-	-	-		-	-	4		-	1
	後天性免疫不全症候群	-	4	18		-	-	1		-	-
	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-		-	12	20		-	-
	梅毒	-	5	8		-	-	4		-	-
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	1	1		-	2	76		-	6
											3

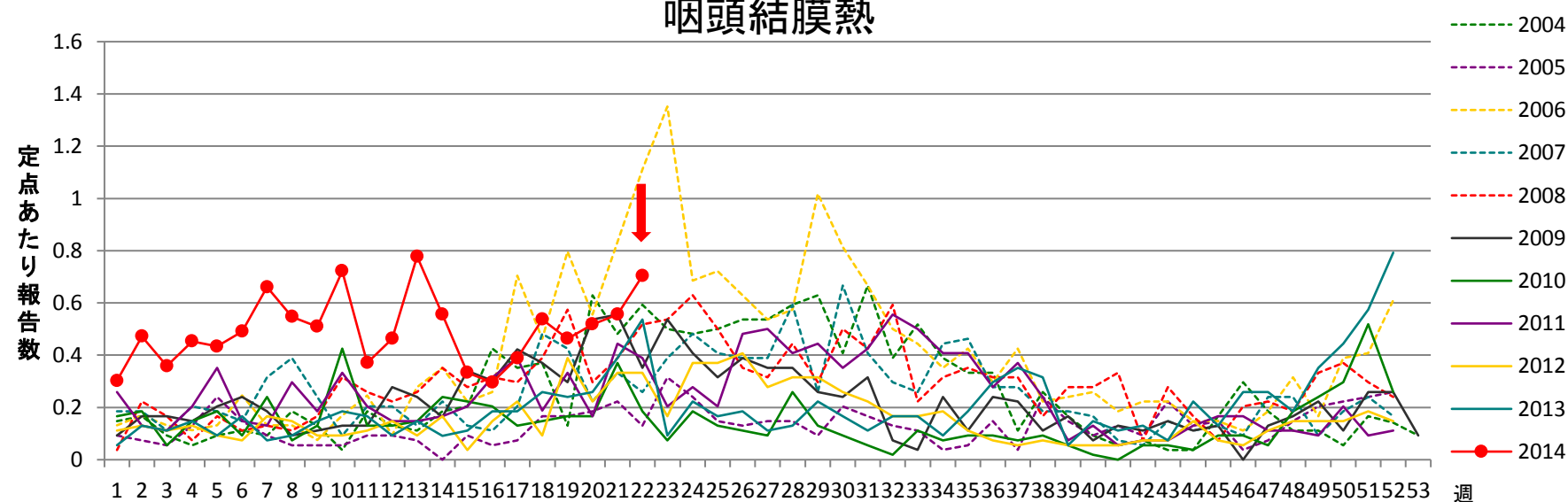
インフルエンザ



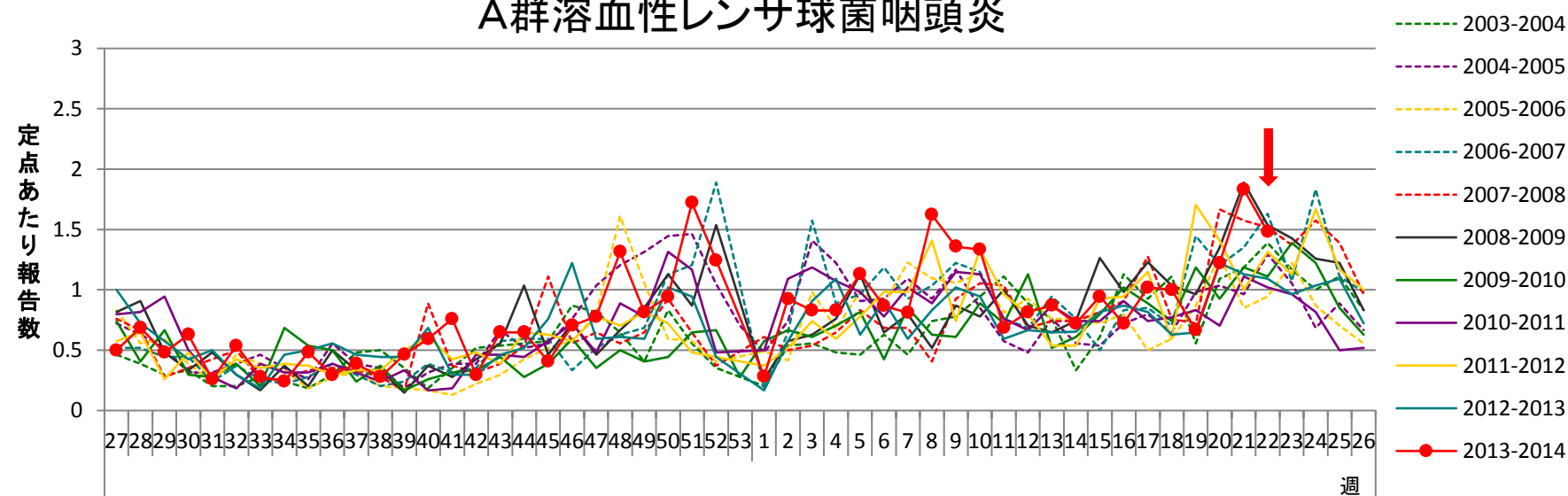
RSウイルス感染症



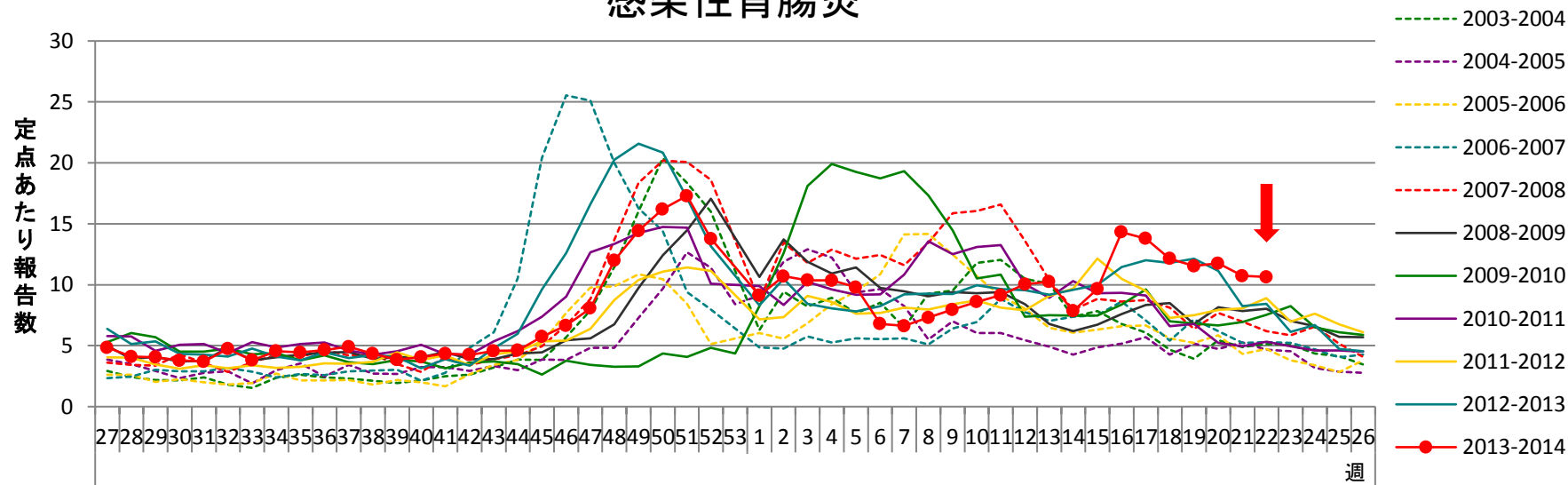
咽頭結膜熱



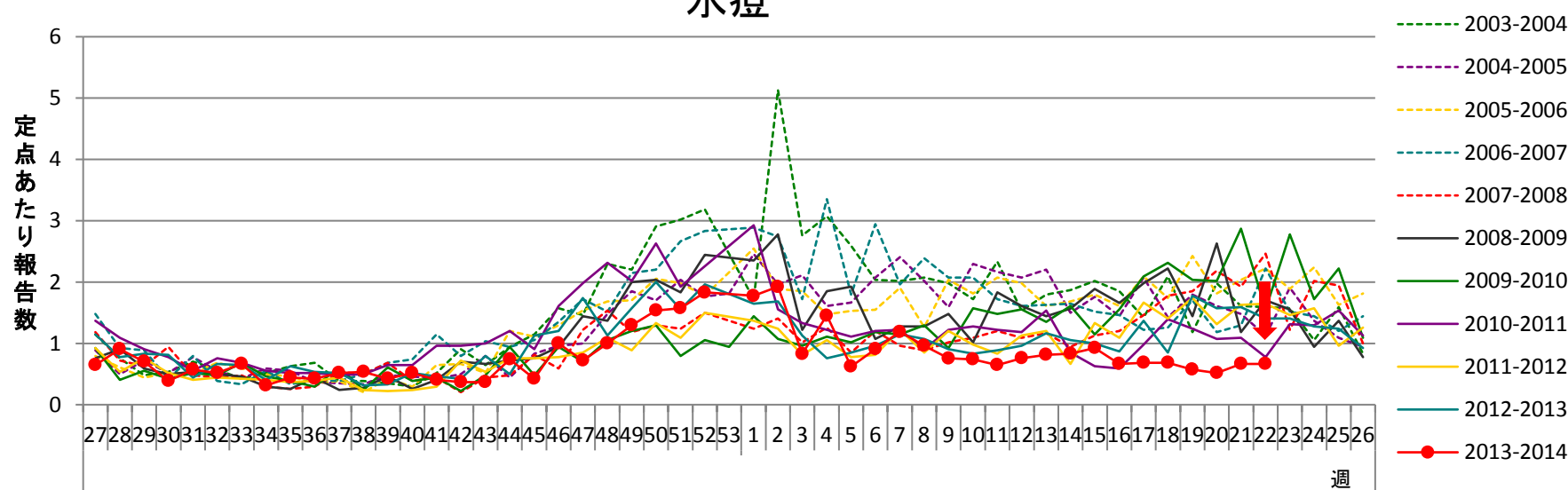
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



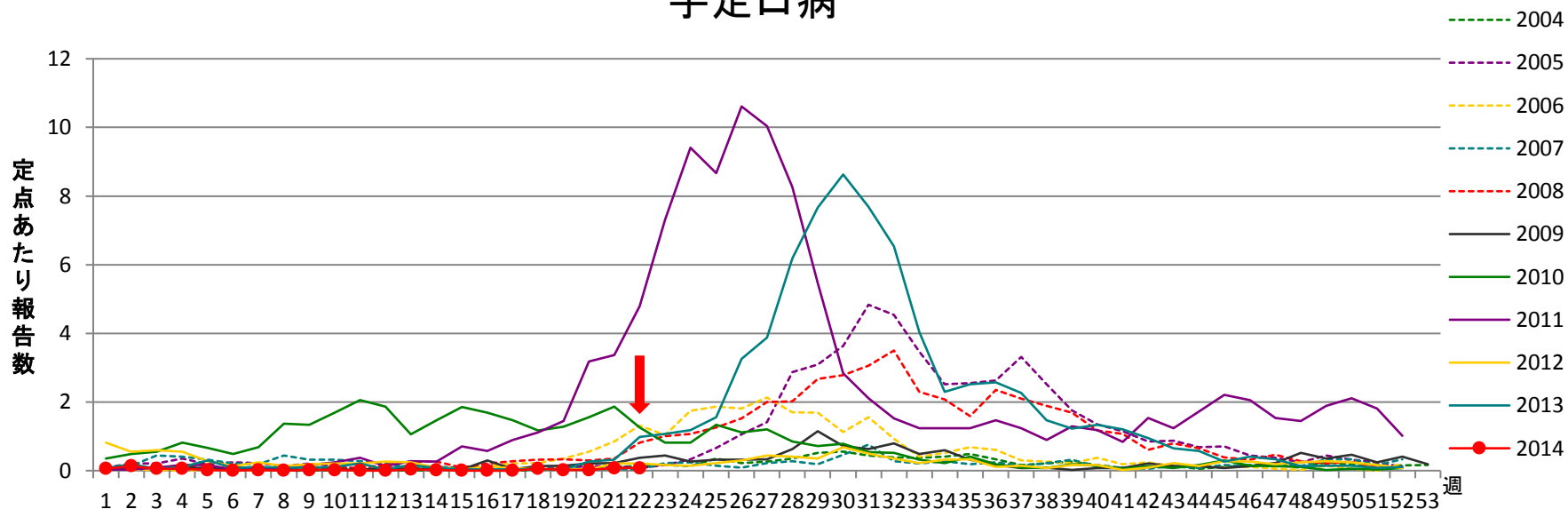
感染性胃腸炎



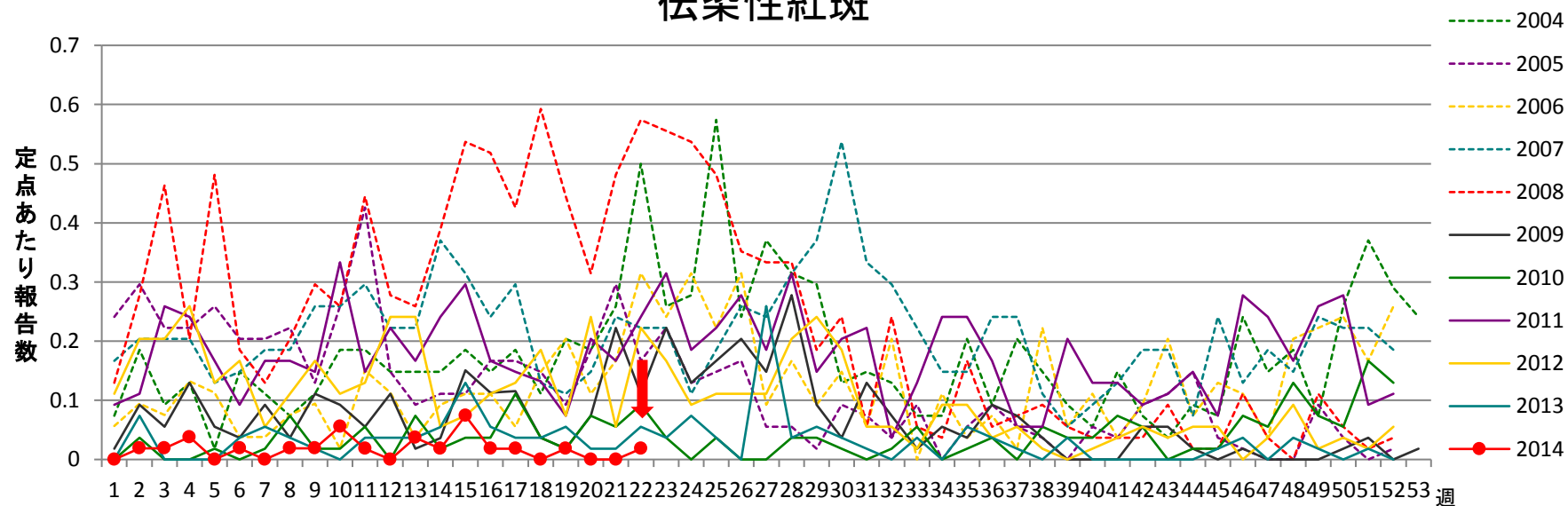
水痘



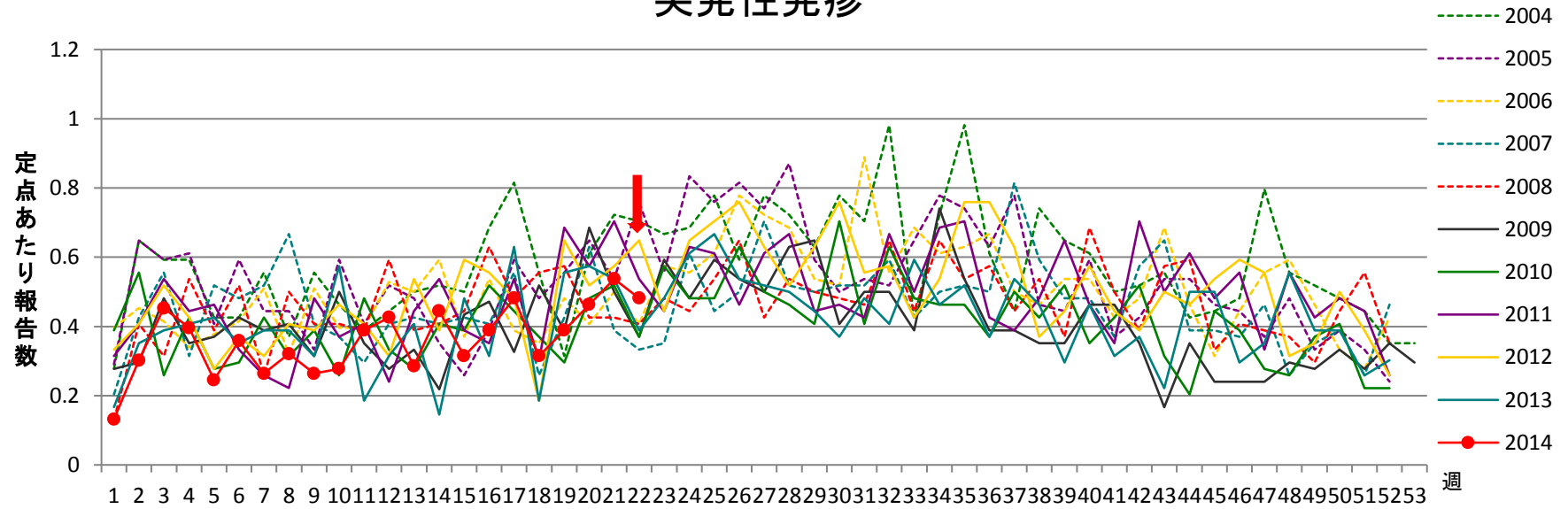
手足口病



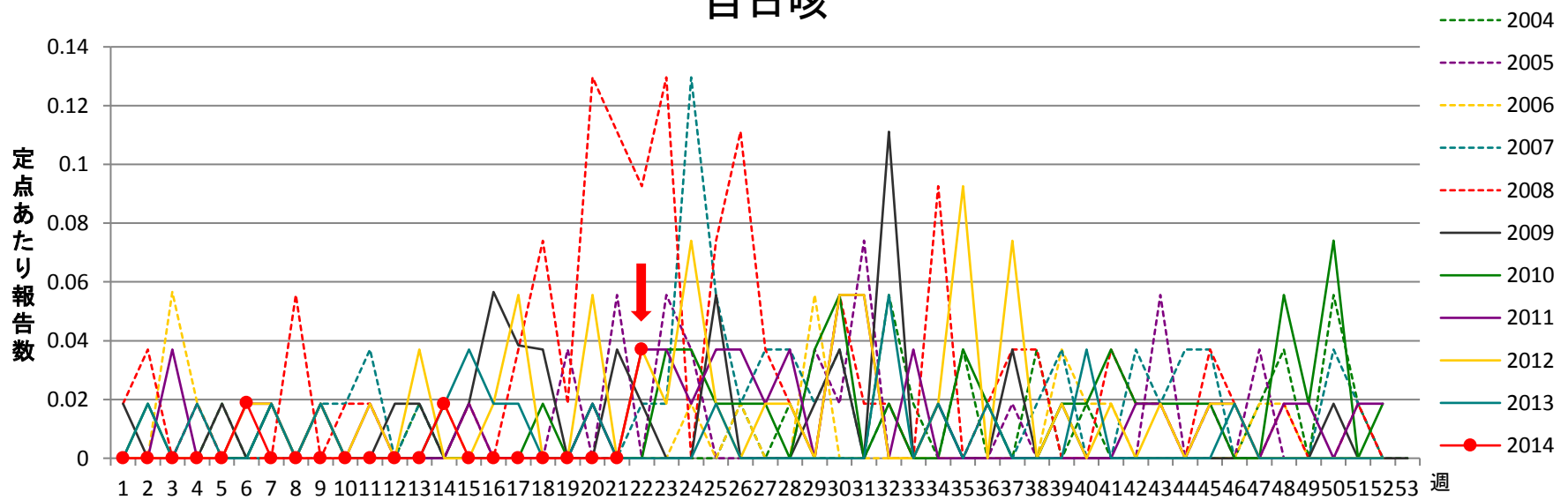
伝染性紅斑



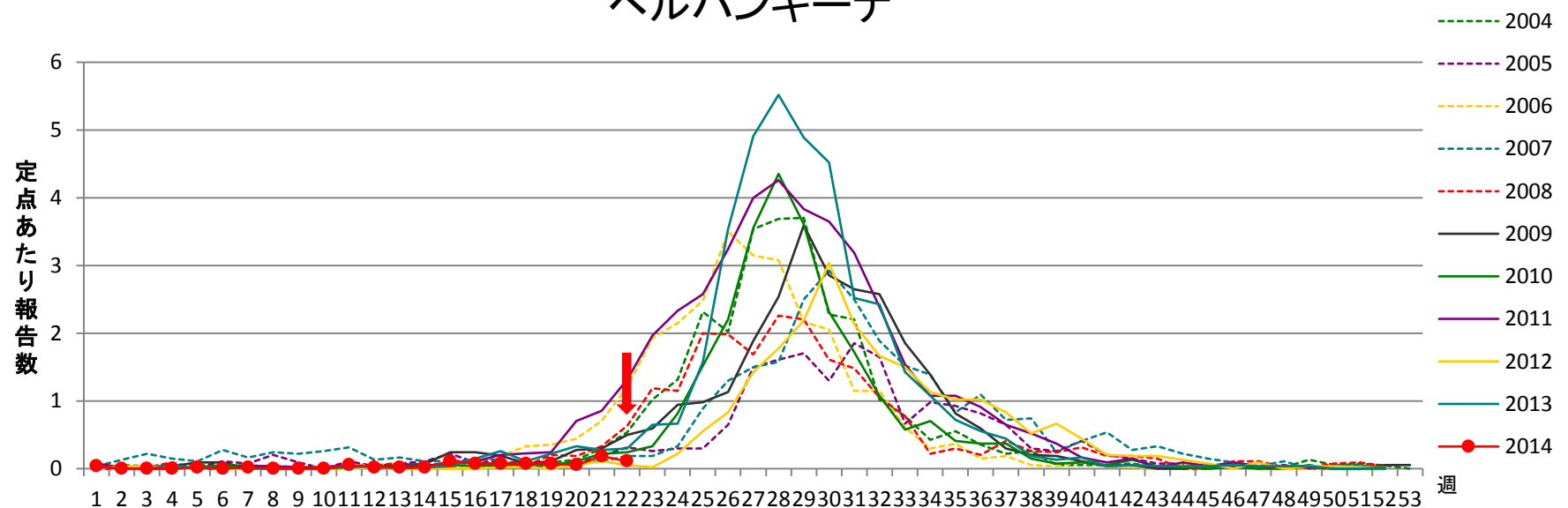
突発性発疹



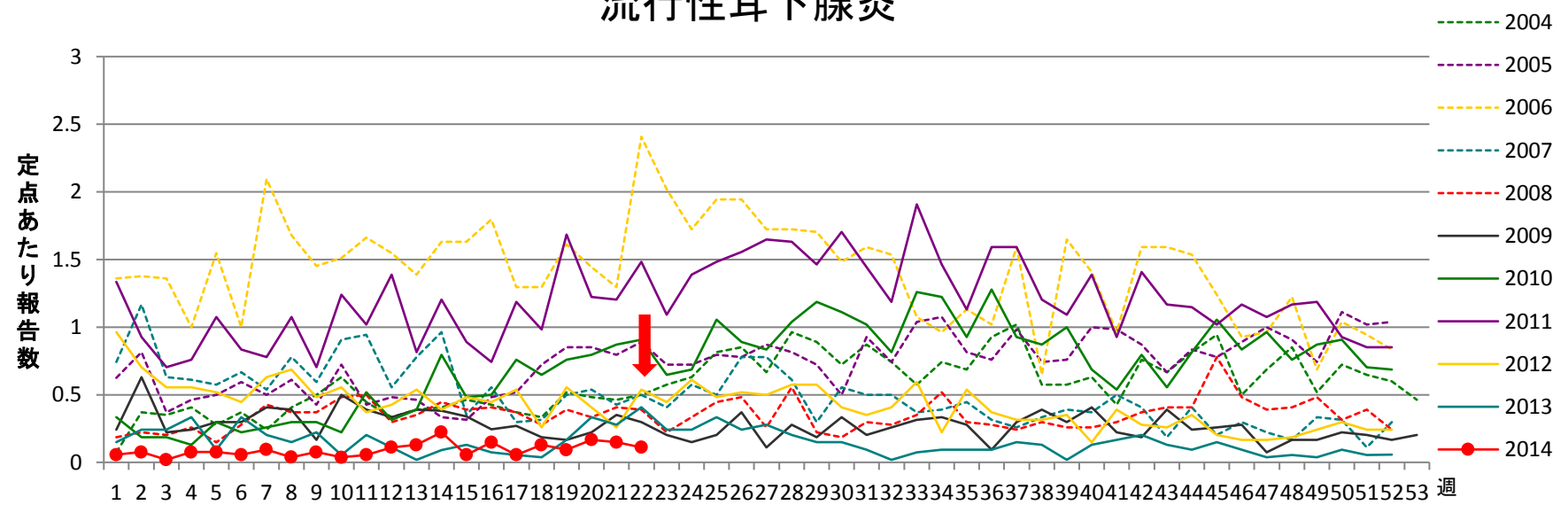
百日咳



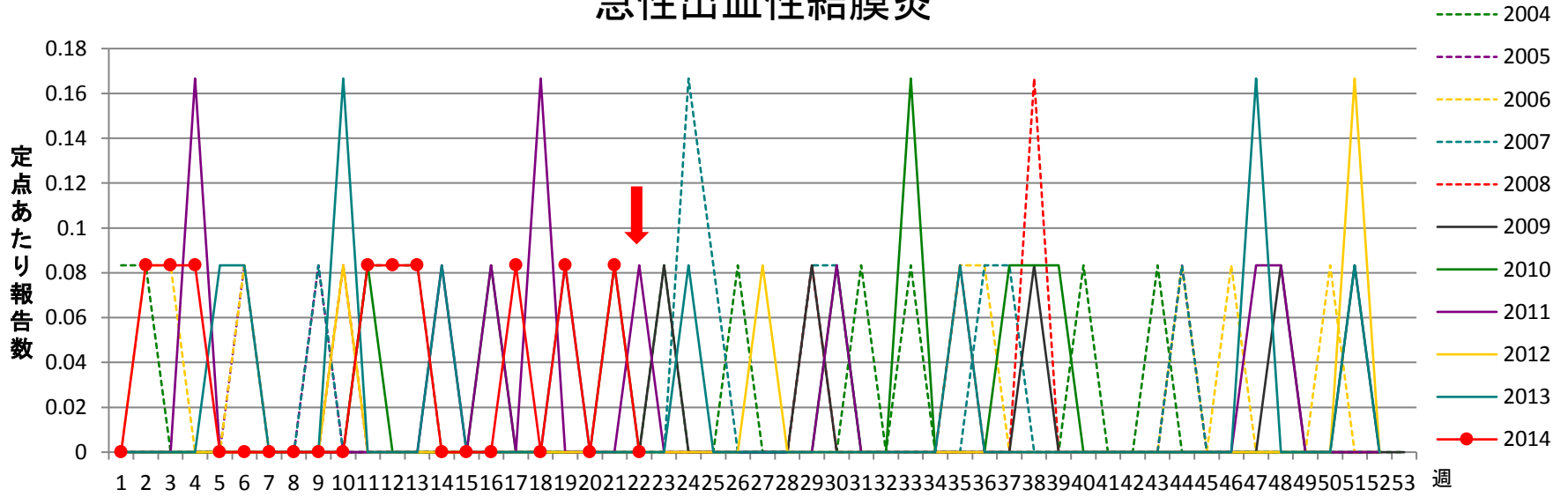
ヘルパンギーナ



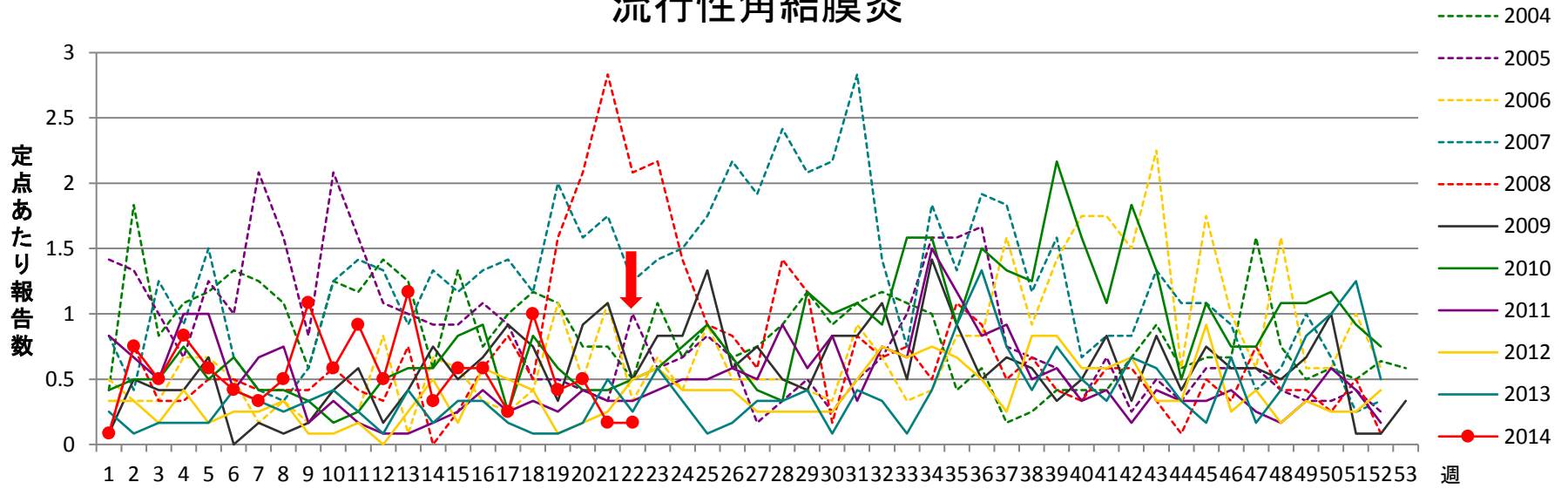
流行性耳下腺炎



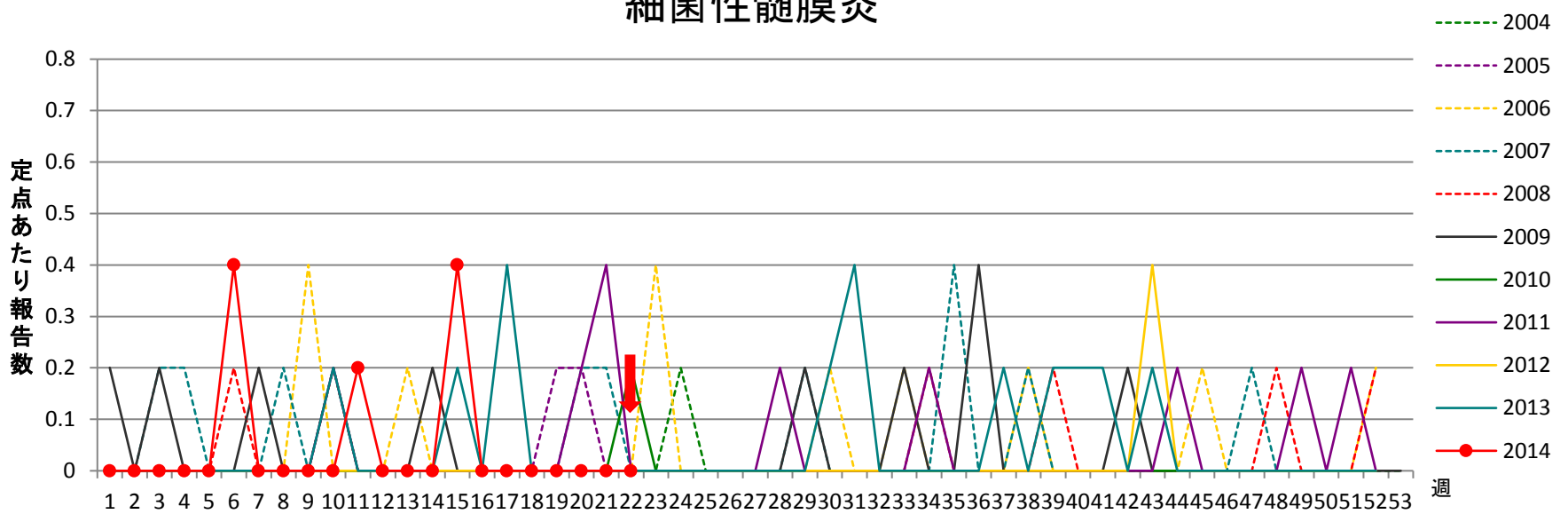
急性出血性結膜炎



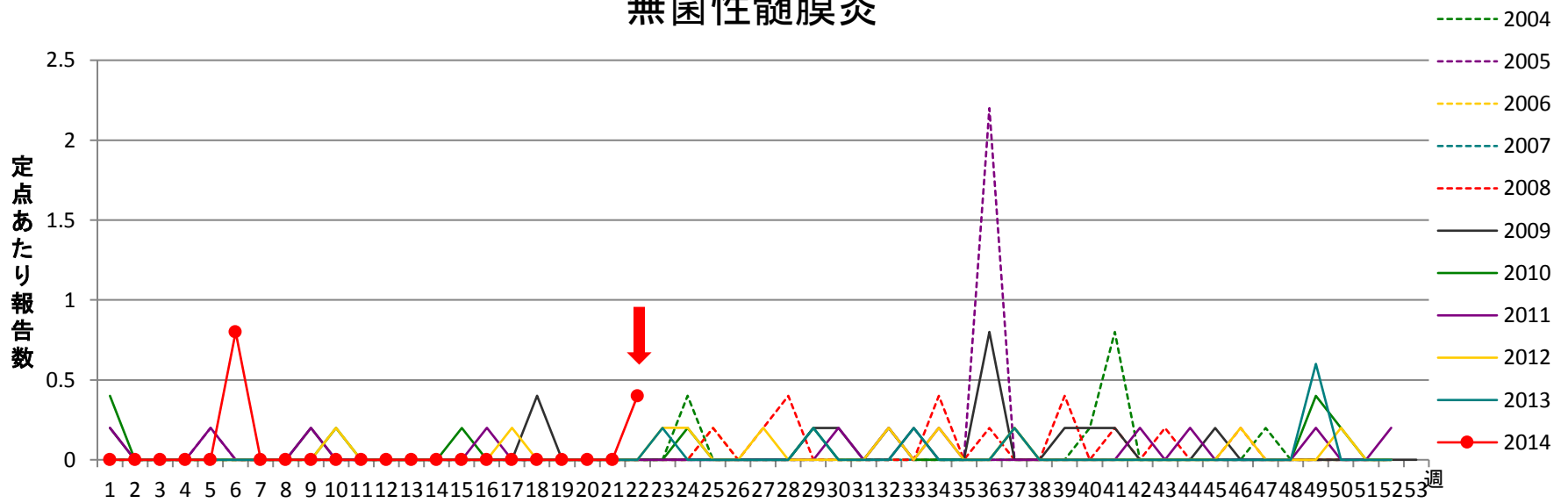
流行性角結膜炎



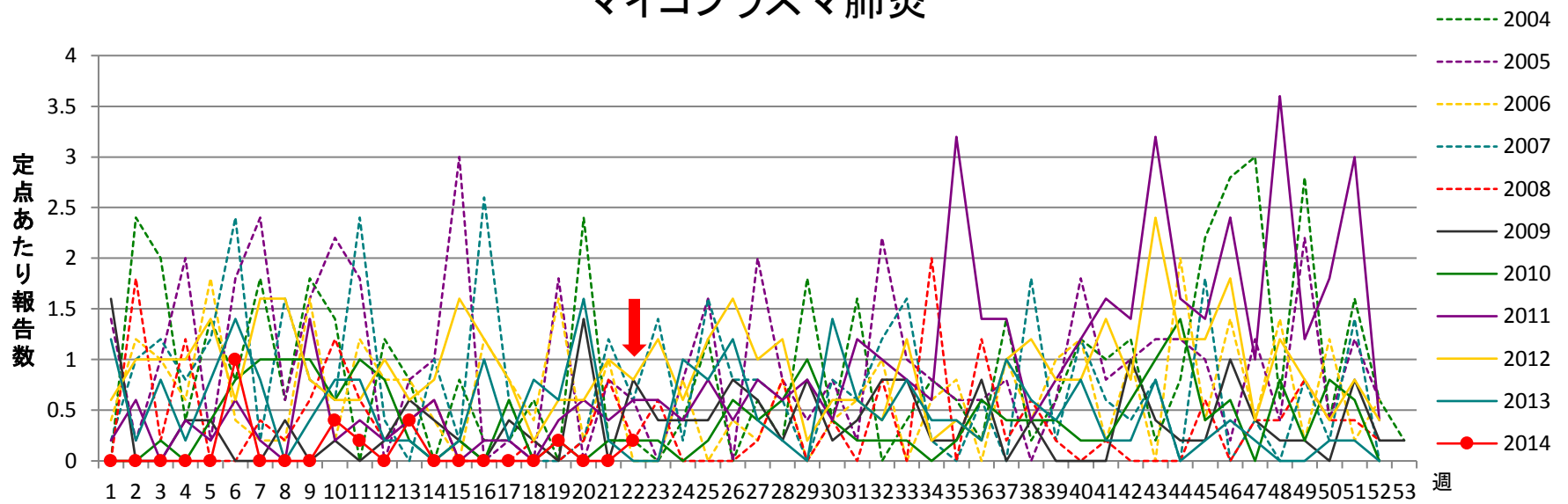
細菌性髄膜炎



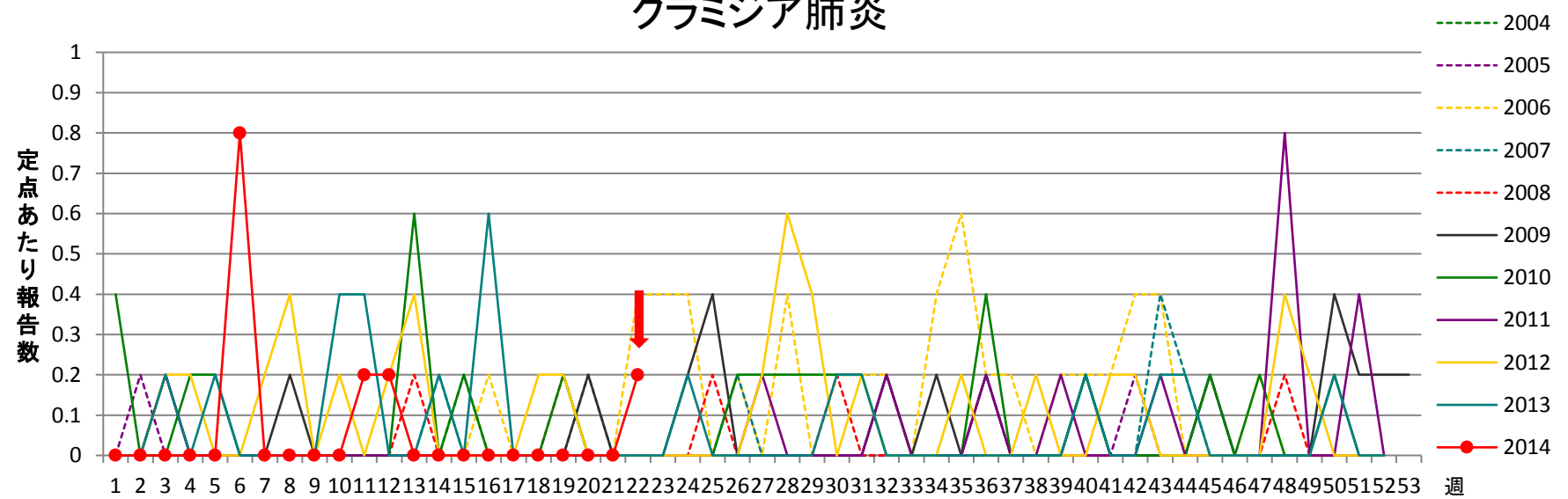
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

